

みんなで考えよう、ESDへの新たなアプローチ

8月23日、本年度の「ユネスコスクール・ESD研修会in大牟田」が、ホテルニューガイアオオムタガーデンにおいて開催され、北海道から沖縄まで全国各地から300名を超える参加がありました。今号では、この研修会のようすをお知らせします。

まず、午前の部では、国連広報センターから、妹尾靖子広報官をお迎えし、「SDGsでより包摂的な世界をめざす」と題して、講演が行われました。講演では、世界のSDGsの動向をふまえた取組やわが国の考え方についてお話がありました。午後は、4つの分科会に分かれ、実践発表をもとに指導助言者の先生方にご指導をいただきました。



▲国連広報センター
妹尾靖子広報官

第1分科会「防災・地域学習」

熊本地震で大きな被害を受けた宇城市立小川小学校から、震災復興に向けた地域と学校との協働のようすが報告されました。学習を通して、ふるさとの文化や産業への理解が深まり、よりよい文化の創造へ向けた地域参画への意識が高まってきたとまとめられました。



▲宇城市立小川小学校

第2分科会「海洋教育」

大牟田から、天領小学校、みなと小学校、天の原小学校による発表がありました。各校の取組のほか、3校合同交流会の様子や今後の計画について報告があり、1月にはまとめとして「子ども海洋フォーラムin九州」を計画し、九州の推進校である坊津学園、玄海みらい学園と連携して海洋教育を推進していくことも示されました。



▲南さつま市立坊津学園

第3分科会「世界遺産学習」

北海道羅臼町教育委員会からは、「クマ学習」についての発表がありました。ヒグマが棲む地域への誇りを持つとともに、ヒグマと共存できるまちとして、人間と自然との関係について、新しい自然観を育てていることが報告されました。また、生物多様性の維持をふまえた「知床学」の実践についても、子どもの活動のようすが紹介されました。



▲羅臼町教育委員会

第4分科会「地域ESD学び合いフォーラム」

九州内の様々な地域で活動しておられる方々の実践交流が行われました。分科会の後、金沢大学環境保全センター教授・ESD活動支援センター副所長の鈴木克徳先生より総括が行われました。

大牟田市立大正小学校の実践

「ひまわりプロジェクト」でまちを美しく

大正小学校では、5年生を中心として「ひまわりプロジェクト」を推進しています。これは、福島から購入した種からひまわりを育て、収穫した種を福島に送る活動に端を発したものです。地域の人々や保護者と協力・協働し、自分たちが在籍する学校や自分たちが住むまちに綺麗なひまわりを咲かせよう。そして、学校やまちに誇りを持って過ごすことができるようになろうというねらいを持っています。具体的には、自分たちがプランターで育てたひまわりを大牟田駅に置かせてもらったり、近隣のおうちの前に飾らせてもらったり、学校内に多くのひまわり畑を作ったりしています。さらには、大正町四丁目交差点にあるロータリーに樹木や花々を植樹する「子ども花だんプロジェクト」などにも協力しています。まちや学校が、花でいっぱいになるにつれて、子どもたちは、達成感や成就感を味わっているようです。今後、校区の美化活動も併せて取り組むことで「美しいまちづくり」への意欲を高め、地域を愛する児童の育成に努めていきます。



大牟田市立宅峰中学校の実践

地域やGTを生かした体験活動を通して、自己の生き方を考える学習

2・3年生は、進路選択に際して、「高校についての情報に加えて、高校卒業後の大学や専門学校、大学卒業後の就職など、もう一步先の情報を提供し、将来設計について考える機会としたい」という、ねらいのもとに進路学習を進めました。大牟田北高等学校、誠修高等学校、保健医療経営大学から先生を本校にお招き、自分の将来設計について考える講話を行っていただきました。また、1年生は、福祉学習を行いました。「誰もが安心して暮らせる大牟田のまちづくり」というテーマのもと、大牟田市役所健康福祉推進室や健康長寿支援課の方に講話をしていただきました。

